弓削通信 ファニックス

2016.10.15 №76（通巻202）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

久々に明るいニュース。三年連続日本人受賞。ノーベル医学生理学賞・単独受賞。大隈良典氏（71歳）東工大栄誉教授・談

「未来のために基礎的な研究を支える社会になって欲しい」

地球という細胞、国という細胞、地域という細胞、そして人間

◆ノーベル賞

日本人はノーベル賞が好きだがなぜかな、という評論を読んだことがある。それはオリンピックが好きなのと同じ心理とか書いていたがほんとのところはわからない。が、オリンピックと同じように、ノーベル賞にもとても関心が高いのが日本人だろう。

今回の受賞は、細胞が自分自身のたんぱく質を分解し、新しいたんぱく質の材料として再利用する仕組みを解明したとかで、素人にはさっぱりイメージがわかない。いっそ細胞という微細な世界のことを、もっと大きな形態でイメージしてみればどうなるのだろう？

新聞等の解説ではこの働きのことをオート（自分）・ファジー（食べる）とか呼び、細胞は自分の中にあるタンパク質を、外部からの補給だけではなく、内部でも、不要になったり壊れたりしたタンパク質をリサイクル（再生利用）しているのだそうだ。

◆オートファジーを例えれば

肉眼では見えない細胞内のありさまは、中々想像しづらいが、似たようなことは、実は世の中のいたる所で目にすることができるのではないか。例えば「ある組織の自浄作用」とか、「政治体制の改革とか立て直し」などなど。

これらはひとつの枠組の中で、不要になったり壊れた仕組みを分解して新たな組織や仕組みを外部の力を借りずに再生することや、腐敗して機能不全になった組織が、自浄作用を発揮して生まれ変わるとか・・・。

逆に言えば、目には見えない世界でも、現実の浮世の仕組みでその組織の生き残りを図る動きがされていて、極小の世界から極大の世界まで、あらゆる世界（仏教的には三千大千世界）は生命体として共通のルールで生きていることになる？。

近頃は樹木にも感情があるとかの研究発表もあったりで、木石すらも、その意味する定義を書き換えねばならぬのかもしれない。

そういう中で、最近インターネットでみた調査のひとつに次のようなものがある。

「貧しい人を国が救うべきか？」という質問があるのですが、反対と答えた人数比率がイタリアや中国で9%だったのに対して、日本では38%という驚異的な値になっていました。38%はアメリカの28%を超える値で、ここまで貧困者支援に反対が多い国は殆ど例がないです。

「救うべきだと思わない」と答えた人の割合

イギリス：8%
ドイツ：7%
イタリア：9%
中国：9%
アメリカ：28%
日本：38%

●漂着ゴミでよごれる海浜を月に一回清掃する学生たち
瀬戸内海弓削島松原海岸・弓削商船高専ボランティア

◆外してはならぬタガが外れて

調査の出典は外国らしいが話半分にしても、なにやら世相の背景が現れているようで寒い。

この夏の参院選挙から鳴り物いりで始まった一八歳への投票権付与や、その投票結果をみても、案に相違して若者の保守化、与党びいきは垣間見えた。

未来を担うはずの若者が、なぜ革新や変革に向かわず、保守、現状維持に身を寄せるのか。

そういう若者の目にとまるのが、例えば富山市議会議員の政活費（政治活動費）搾取事件のように既得権にしがみつき、ちまちま違法な小銭をかせぐ堕落した政治家の姿なら、この国の未来を食いつぶすのは、リーダーたるはずの者ら、ということにもなる。いやはや書き出しは明るいニュースなのに、また話が暗くなってしまった。

きどぐち 七十五

青木喜代子

広島カープの勢いが、人気がすごい。当然チケットの入手は困難。そんなとき黒田二〇〇勝のかかったチケットを二枚入手。「JR窓口で観戦チケットを見せたら割引になり、お弁当代が浮くよ」とのカープ女史のアドバイス通り見せたら「うわー、いいですね！」とJR職員。きっと私が〈どう？いいでしょ〉と得意気な顔をしていたんだろう。思わず「行く？」と無茶を言ってみた。

さて新幹線の中はカープグッズを身につけた大勢のファン。広島が近づくとスーツを脱ぎユニフォームに着替えるサラリーマンも。私達はおまけでもらったカープのバッグと赤いタオル（還暦の時シャレで作った赤いやつ）を首にまいて少し貧相。駅につくと、ここはスタジアムか、ってくらい赤や白のかたまりが大移動する。目の前を小さな女の子が応援ソングをメドレーで声を張り上げて歌っている。もちろん全身カープ。私と目が合うと照れ臭そうに声が小さくなる。そうこうしながらスタジアムが近づくと、いやでも気分は盛り上がる。

指定席に座ると囲りは戦闘モードに。夫が席を立ち、しばらくするとユニフォームとバット、グッズを手に帰ってきた。優勝後市内のデパートは売上増。赤いインク、繊維、とにかく赤系に関わる業種はまちがいなくカープさまさまだろう。これで日本一になったらおおごとです。みんな当分仕事は手につかんよ思います。

え？黒田？見事に負けました。帰りのJRの窓口にはあの職員がおり、「残念でしたね！」って。笑顔で迎えてくれました。

お知らせ

●吉海町郷土文化センターの渡辺裕子さんから案内が届きました。

2016年9月18日(日)～11月20日(日)
松山
MIURART VILLAGE MIURART
ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）
〒799-2651 愛媛県松山市堀江町1165-1
TEL089-978-6838　FAX089-978-0323
休館日：月・火曜日（祝日は開館）
開館時間：午前9:30～午後5:00
入場料：一般800円（前売り600円）、

●没後六十年　尾道生まれの文人画家・楠瓊州（けいしゅう）を中心に館蔵品の展覧会。瓊州代表作菊歌図（屏風）

尾道市立美術館
〒722-0033 尾道市土堂町2-13-7 市民会館内 Tel.0848-23-2281
詳しくは（0848-23-2281）

弓削通信 フェニックス

2016.10.15 №76（通巻202）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

合併三期目の四年間をふりかえって思うこと

筆者は平成二十四年十一月五日に上島町議会議員へ復帰させていただきました。合併三期目に立候補したときの、いわゆる公約は、

①住民の安全と安心が第一の行政をさせるため、

②住民の願いを行政に反映できる議会力をつけ、

③交通体系の見直しと尾道航路の再構築をさせ、

④全町一区選挙の実現、でした。

①と②は議員だれもが取り組まねばならぬテーマであり、③と④は具体的な目標でした。

強い議会の実現とは、理事者（町当局）が議会の意見を尊重する態度を高めるものですが、双方の協調力も問われます。

❖実現できなかった公約

③の尾道航路再構築はしくじりました。このことについては弓削通信フェニックス平成二十四年五月号（№24）に、時系列で経過を町民の皆さんにお知らせしました。

議員活動録

議会は、強く賢く

（42）上島町議会議員　平山和昭

当時、尾道航路を運行していた瀬戸内クルージング社と、町長ほか議会議長との面談の中で、町長が会談冒頭、クルージング社長に浴びせた罵詈にも等しい物言いは、録音記録に残っており、とてもこれから先が建設的な交渉になる予感を抱かせないものでした。同席した議長が提案したクルージング社の決算報告書の提出も、同社長によれば、どのみち難癖の材料にしかされない、と感じたので、もう交渉を断念、撤退を決意した、ということでした。

❖反省のない責任転嫁

いまさらな感じですが、そもそも旧弓削町時代の尾道航路誘致は、平成十三年、当時の木下弓削町長と亀田尾道市長とが、岡山県笠岡市にある瀬戸内クルージング社をおとずれ、辞を低くして就航を懇請し実現したものでした。社長にとっては、「頼まれたから就航した。十年間自助努力で運行はしてきたが、しまなみ海道開通、生名橋架橋もあり、もう採算があわないので廃止にしたい。しかしそれでは事業者としての顧客に対する責任が果たせない。なのでなんとか自治体の応援が得られないかと、話し合いの場を思ったが、こちらがやりたいので支援を依頼してると受け取られるのは心外だ」、ということです。

結果、二十四年五月、尾道航路は廃止され、その後芸予汽船（今治～因島航路）減便問題に端を発した町交通体系ありかた協議会などが開催されましたが、尾道便に関してはまともな議論はありませんでした。

ともあれそれら交渉ごとを、現職町長は、決算書も見せない事業者だと、交渉の不首尾を相手に責任転嫁し、いまもって自分の後援会報に似せたチラシで言い訳したり、ありもしないことを、その一派が書き散らしているのが実態です。何を言うかのイカのキンタマですね。

❖討論と是々非々の実践を

②の議会力については読者の皆さんから見て如何でしょうか。

筆者的には十分とは言えませんが力をつけて来ていると思います。議会力には様々なレベルがあるとは思いますが、議会基本条例の制定や、それにもとづく活動を開始したことで、もし無気力な議員が駆逐されれば、我が町の議会は一段と力をつけてゆけるはずです。その先に、町民の皆さんの願いがきっちり行政に反映される町政が見えてくるでしょう。

また議会力は、議員間の討論や討議が、日常的にできるようになって初めてそれと見えてくるものと考えています。事案につき、賛成なり反対なり、ともにその理由を言語化、つまり発言が出来ねば、議会の若返りのための課題である報酬の問題も、町民の皆さんのご理解とご同意は頂けないものと考えています。

④の全町一区選挙は、これは悲願十二年で達成できました。

合併四期目の選挙は議員も全町一区です。賛否両論あるのは承知ですが、有権者の票がどう動くかは、実施してみねばわかりません。とても楽しみなことではないでしょうか。

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会（参加自由）
（毎月25日13時～。生名開発センター2Fで開催）
〈26〉

濱田國太郎を顕彰する会の活動は、もちろん國太郎の事績を顕彰することですが、そのひとつの具体化として、かつて出身地の生名島は厳島のあった等身大超の銅像の復元（ただし素材は新素材繊維強化プラスチック）です。元の像は太平洋戦争初期、昭和18年に金属資源として国に供出を強要されました。そういういきさつから、像の撤去された台座をそのまま歴史遺産として残すべきだとの意見も、顕彰する会の中にありました。しかし協議のすえ、日本で初めて産業別労働組合である日本海員組合（大正10年～昭和15年）をたちあげ、当時ひどかった普通船員（国家海技免状をもたない船員）の待遇改善にむけ、国や船会社とわたりあい、多くの船員の生活を守った海上労働運動の先達が、我が町から出身したことを前向きに後世に伝え、内外にアッピールするためには、像の復活が有効な手段だということで大方の意見の一致をみました。それを具体化するために本年4月には立像設置事業計画をたて、一般からの寄付と、町の「ふるさと事業」資金の交付と合わせ150万円の事業費を用立てる募金活動を開始。10月時点で目標に達していますが、なお顕彰碑建立用に募金は引き続き継続中です。ただ肝心の立像製作が、当初海外発注としていのが、国内での原型づくりに変更になったため、納期が約3ヶ月先送りとなり、現在実寸の原型づくりが進行中です。遅くとも年内には設置をしたいと考えています。

●製作中の粘土型。奥は実寸大。手前は2分の1の粘土型

（生名中央公民館解体および庁舎改修工事のため、月例会会場を生名開発センターに変更しています）

おしらせ

「やよみ亭・映画研究会」休会のおしらせ。
十月は、地区の秋祭りのためお休みします。次回は十一月十五日開催です。

ふわりふらっと ⑥

大西幸江

今月は、四年に一度の上島町の町長と議員を選ぶ選挙の年。選挙に行って、自分の権利を行使するというのは、今は普通のことです。

選挙と聞くとなんだか硬いイメージ。若いころは、政治の話は通常しないと言うのがマナーだと思っていました。でも、子どもが生まれて行政サービスが身近になってくると、政治に接していない暮らしはないと思うようになりました。子どもの通う保育園や義務教育は、町の行政機関が深くかかわっています。何気に出しているゴミも上下水道事業も町。

電気は大きく言えば国。公共交通機関も町や国が関わって決まっていることが多いのです。暮らしを良くするのも悪くするのも政治次第と言うことです。

もちろん、大きくは国政を変えないといけないでしょう。でも、今の枠組みの中で出来ることもあります。小さなことでも不便さを解消すれば一歩前進できます。工夫ひとつでよくなることはたくさんある。

そのためには、ちゃんと自分の意志で自分の代弁者となってくれる人を選びたい。この先の時代を作るのは誰でもない自分自身だと思うからです。